

特別小特集

学会から世界への学術情報発信 — 未来への展望 —

編集にあたって

編集チームリーダー 今井 浩

明けましておめでとうございます。21世紀になり十二支も一巡りした年の初めに、ぜひ明るい話題をとということで、本会から世界への学術情報発信について、未来への展望・夢を語るべく特別小特集を企画させて頂いた。本会の活動は、幅広くそして深く先端分野をカバーするもので、会員の皆様にこの広範囲に及ぶ活動を御理解頂くことを一つの目的として、会誌を毎号皆様のもとへお届けしている。

本会の活動成果の発表形態としては、最先端部分は論文誌に結実しており、会員全体に広く周知する電子情報通信に普遍的・啓発的情報は会誌に掲載、更に将来的には本会 Web サービスも加えて情報発信していく予定である。論文誌については1991年から英文論文誌の4分冊化に取り組むといった先見の明ある施策が功を奏して、電子化・国際化へと継続的にかじを切って進み、従来から推進してきたICTがもたらしたインターネット基盤も通して、本会の国際活動において冠たるものになっている。本会は学術情報発信の面でも、これまでの取組みによって誇るに足る成果を築いてきており、将来の展望に向けて更にまい進している。一方、本会以外の分野、例えば化学・物理等の各分野においても学術情報発信のために様々な取組みが行われている。日本の科学技術の将来のため、世界に向けて国家規模での学術情報発信を試みる取組みも行われている。世界ではオープンアクセス運動やインパクトファクターを誤用した評価の課題など、様々なムーブメントがある。また、見方を変えて本会を支えるアカデミックコミュニティという立場から俯瞰すると、実は大学図書館もプレーヤーの一員であり、特殊員という会員制度で参加頂いているという現状がある。本会で編集長のもと編集理事として活動させて

頂いていると、これらの種々の活動を一望する機会を得られるため、日頃からこのような現状を会員の皆様に御理解頂くよう努力する必要性を実感しており、この年頭の特別小特集を機にぜひこの現状と将来展望を共有させて頂きたいと考え、本特集を企画させて頂いた次第である。

本特別小特集では、まず酒井編集長に本会会誌・論文誌による学術情報発信について現状と課題をまとめて頂いた上で将来に向けた展望を示して頂いている。次に原島前副会長から、御自身が先導されている本会広報委員会の活動、特にネットワーク戦略の推進を通して、学会から社会への情報発信の重要性について御執筆頂き、学会としての今後の使命を語って頂いた。国立情報学研究所の安達氏には、同研究所における日本から世界に向けての学術情報発信について、学術雑誌という広い視点で、Cinii等で実績を上げてきた本会との連携を更に推し進める諸活動について御説明頂くとともに、世界の動向についても記して頂いた。日本化学会の林氏には、比較対象として活発な先端学術情報発信を推進されている化学分野について現状を教えてくださいるとともに、分野は違えども日本発の学術情報発信をするという点では同じ志を持って活動していらっしゃるお立場からの応援解説を御執筆頂いた。そして最後に、東京大学附属図書館の高橋氏に、こうした本会の学術情報発信活動を教育研究に供して財政的にも支えて頂いている大学図書館の現状と展望をまとめて頂いた。なお、本会の特徴として企業図書館にも特殊員として多数参加・支えて頂いているという点については、誌面の制約でここで触れるのみとなったことをおわびしておく。

この新たな年の始まりに電子情報通信に関する科学技術情報発信の現状そして将来の展望を多様な側面から御理解頂き、本会として進むべき道について共に考える機会にして頂けると幸いです。

特別小特集	今井 浩	久保田 彰	吉野 仁
編集チーム	吉川 信行	苗村 昌秀	